

手をたずさえて

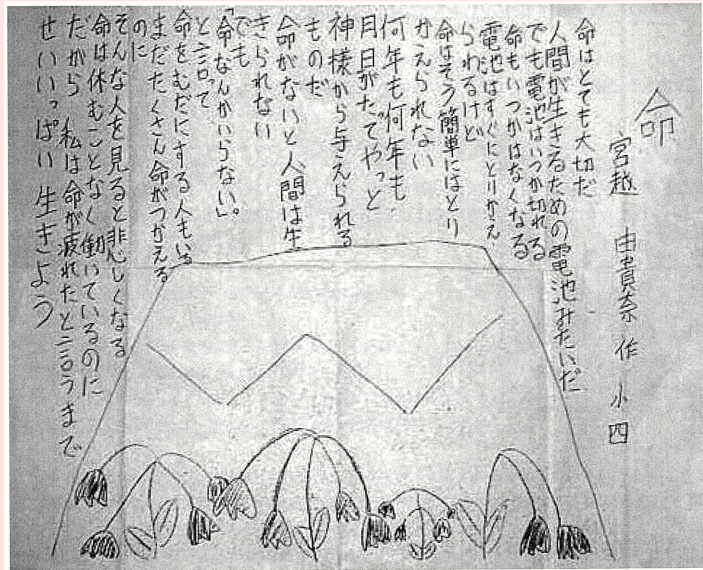
- 自ら学ぶ生徒
- 正しく行動する生徒
- 健康でたくましい生徒



平成30年7月20日(金)発行
【発行責任者】郡山市立富田中学校長 熊坂 洋

電池が切れるまで… 『命の大切さ』

命はとても大切だ
人間が生きていくための電池みたいだ
でも電池はいつか切れる
命もいつかはなくなる
電池はすぐにとりかえられるけど
命はそう簡単にはとりかえられない
何年も何年も
月日がたってやっと
神様からあたえられるものだ
命がないと人間は生きられない
でも
「命なんかいらない。」
と言って
命をむだにする人もいる
まだたくさん命がつかえるのに
そんな人を見ると悲しくなる
命は休むことなく働いているのに
だから 私は命が疲れたと言うまで
せいっぱい生きよう (宮越 由貴奈)



この詩のタイトルは「命」です。この詩は、5歳のときに発症した「神経芽細胞腫(しんけいがいさいぼうしゅ)(小児がんの一種)」という病気と5年半にも及ぶ闘病生活の末、11歳という短い生涯を終えた宮越由貴奈さんという少女が、亡くなる4ヶ月前に書いたものです。

長い辛い闘病生活の中で、由貴奈さんは死を覚悟するような大手術を何度も受け、大人でも逃げ出したくなるような激痛や吐き気を伴う治療を続けていました。死と隣り合わせで毎日を生きていた由貴奈さんにとって、「命」は、毎日毎日実感し、常に考え、感じる、とても大切なものだったと思います。

由貴奈さんの詩は、長野県立子ども病院にある院内学級(長い期間入院している子ども達が勉強する学級)の子ども達が書いた詩や作文などが載っている『電池がきれるまで』という本に収められています。

由貴奈さんは、どんな思いで「私は命が疲れたと言うまでせいっぱい生きよう」というフレーズを書いたのだろうかと思います。

確実に言えることは、「生きたくても生きられない、生きたくても生きるこののできなかつた命」がここにあったということです。

発生から2週間が経とうとしている「西日本豪雨災害」。**【犠牲者の方々に哀悼の意を捧げたいと思います。】**
これまで200人を超える方々の死亡が確認され、行方不明者も数多くいます。必死に捜索を続ける自衛隊員や警察・消防隊員の姿、捜索を見守る家族の姿など、連日のように報道されています。日を追う毎にその被害の甚大さが明らかになっています。ここにも、「生きたくても生きられない、生きたくても生きるこののできなかつた命」がたくさんあったと言えます。

一方、自然災害は別として、毎日のように社会の中では、自己の欲望や一瞬の衝動などにより人の命を奪ったり、命を粗末にしたりする事件や事故も起きています。その一つ一つが痛ましく、悲しいものです。

今日は「命の大切さ」「命の重み」について、みんなに考えてほしいと思います。
「命を大切にすることとは、具体的に何をどうすればいいのだろうか?」…きみたちは、どう考えますか? そのひとつの側面は、「自分を大切にすること」だと思えます。

例えば、事故には防ぐことのできない事故と防ぐことのできる事故があります。「慣れ」からの事故防止については学校では何度も具体的に話をしてきました。特に交通事故防止については、命を大切にすることの具体的な実

践場面であると思います。自転車でのスピードの出し過ぎ、急な飛び出し、ヘルメットの未着用など…これらはすべて自分の責任において止めることができることです。

そして、もうひとつの側面は、「他を大切にすること」だと思います。

命を大切にできる人は、善悪の判断がしっかりとできるでしょう。思いやりの心をもって人と接することができるでしょう。ものを大切に使うこともできるはずですが、だから、人を傷つけたり、集団で個人を攻撃したり、悪口を言ったり、無視したりすることは決してしないでください。また、物を壊したり、大切に扱わなかったりすることもありません。

「命を大切にすること」は、我々が生きていく上での一番根っこにあるもので、自他（自分と他）を尊重することにつながっていきます。そして、生活場面での様々な具体的な行動にあてはめることができるはずですが、どうか今の自分自身をじっくりと見つめ、様々な生活場面で命を大切にすることによってほしいと強く願います。

第1学期が今日で終了します。

様々な場面で、みんなの一生懸命な姿、きらりと輝く姿をたくさん見る事ができました。今年度も中体連の各種大会等、対外行事でのみんなの頑張りがとても光りました。また、特別ではなく、日常の地道な努力に裏付けられた目立たない頑張りも数多くあったと思います。みんなの努力や頑張りから感謝します。どうか自分の成し遂げたことに、自信と誇りをもってください。

そして、夏休みの富田中の最大の目標は、事故「0」の夏休みにすることです。

事故とは、交通事故、火災事故、水難事故、喫煙・窃盗万引き・傷害などの非行事故、SNSによる誹謗中傷などの書き込みも含めたいじめなどの生徒指導事故など、あらゆる事故をさします。一人一人が「命の重さ」を胸に刻み、全校体制で、事故「0」という言葉を肝に銘じながら夏休みを乗り切っていきましょう。

最後に、中体連県大会に出場する男子バスケットボール部、女子卓球部、男子ソフトテニス部、女子剣道部、特設水泳部、さらには東北大会に出場する陸上部の生徒のみんなの悔いを残さない精一杯のプレーを期待しています。その他、各種大会やコンクール、検定等に挑む生徒もたくさんいると思います。また、遠く長崎や外国のペラルーシなどで特別な経験をされる人達もいます。2年生は職場体験が待っています。それぞれが、それぞれの活動の場で精一杯頑張ること、それが精一杯生きることであり、命を大切にしていけることにつながっていくと言えるでしょう。そして、由貴奈さんの願いに叶うことでもあると思います。

～第1学期終業式 校長式辞～

アーロン・リー先生、ありがとうございました！



本校に5年間勤務されたAETのアーロン・リー先生が、今年度の1学期で日本での勤務を終え、カナダに帰国されることになりました。5年間という長い間、本物の英語、そして英語の楽しさを生徒達に体感させてくれました。気さくな性格で、生徒のみんなとも気軽に話をしてくれました。中体連の大会等にも足を運び応援をしてくれました。リー先生は帰国された後、カナダの小学校の教員になるそうです。カナダでは、日本や日本人の良さや魅力を是非カナダの子ども達に伝えてほしいと思います。5年間、本当にありがとうございました。健康に留意され、カナダでのご活躍を心より祈っております。

I would like to cherish meeting you.

保護者の皆様へ

夏休みを迎えるにあたって



保護者の皆様におかれましては、1学期の教育活動に対するご理解とご支援に感謝いたします。PTA活動に関しましても、皆様のご協力のもと、各委員会の活動が活発に展開されております。夏季休業中におきましても、各委員会活動が実施される場所もあります。今後ともよろしくお願いいたします。そして、お子さんにとって是非とも“何かを得ることができる夏休み”になるよう、ご指導・ご助言をお願いいたします。

- ◆ 交通事故、水難事故、非行事故等…あらゆる事故防止のためにご指導をお願いいたします。また、お子さんの動向や交友関係、スマホ・携帯等の使用状況についても心配りをお願いいたします。
- ◆ 毎日の学習時間の確保と部活動への積極的参加に対するご支援をお願いいたします。部活動につきましては、休業期間中のため、上限週5日の実施で計画を立てております。
- ◆ 通知票については、各教科の評定が気になる場所ですが、「学校からのお知らせ」に着目していただきたいと思います。担任が思いや願いを込めて記入しています。頑張ったこと、成長した点、改善点などが記載されております。それらを受けての励ましをお願いいたします。

◎ この夏休み期間中、何かありましたら、担任、学校等にご連絡ください。